

埼玉県川口市江戸三丁目 35 番 46 号
医療法人(社団)三誠会 川口誠和病院
理事長 服部 晃典

病床機能の転換について

-療養病床から一般病床への病床種別変更-

1. 病床種別変更の概要

当院は、地域一般病床 24 床、地域包括ケア病床 24 床および療養病床 52 床を有する地域密着型のケアミックス病院として、川口市を中心とした地域住民に対し、急性期医療から慢性期医療まで一貫した医療提供を行っている。

令和 6 年 2 月、同年 3 月に地域医療構想における病床機能分化および受入体制の観点から、下図のとおり病床種別変更を行い、また医療提供体制を安定的に維持するために受入制限を実施中。

今般、地域医療ニーズに応じ、更なる地域医療連携体制の強化を図るべく、療養病床 12 床を地域一般病床 12 床へ病床種別変更し、令和 5 年 7 月と同様の病床構成にしたい。

	令和 5 年 7 月		令和 6 年 2 月	
急性期	36 床	地域一般	20 床	地域一般
	24 床	地域包括ケア	20 床	地域包括ケア
慢性期	40 床	療養	60 床	療養
合計	100 床		100 床	
	令和 6 年 3 月		今回	
急性期	24 床	地域一般	36 床	地域一般
	24 床	地域包括ケア	24 床	地域包括ケア
慢性期	52 床	療養	40 床	療養
合計	100 床		100 床	

2. 地域医療構想を踏まえた南部構想区域の現状

厚生労働省が令和 8 年 7 月に公表した「地域医療構想策定ガイドライン」によると、「地域ごとに現状や課題は一樣ではなく、それぞれの実情に応じて課題を検討する必要がある」とされている。

また、「2040 年を見据えた、地域包括ケアシステムの構築にも資する効率的かつ効果的な医療提供体制を構築していく」ことが求められており、地域医療構想は、「入院における病床の機能分化のみならず、外来医療・在宅医療、介護との連携、人材確保等も含めた地域の医療提供体制全体の課題

解決を図るためのもの」と位置づけられている。

上記を踏まえ、当院が所在する南部構想区域の病床機能別数値は、以下のとおりである。

基礎情報

都道府県	11 埼玉県
構想区域	1101 南部
2020国勢調査人口	80.9万人
2020面積	85km ²

病床数の状況

	2015年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年			2025年		
	2015 実績	2025年必 要数に対 する比	2018 実績	2019 実績	2020 実績	2021 実績	2022 実績	2023 実績	2024 実績	2025 実績	2015年 に対する 比	2015年 との差	2026 見込量	2025 必要数	見込み ／必要 数
合計	4,133	82%	4,373	4,394	4,378	4,587	4,414	4,484	4,665	4,665	113%	+532	4,694	5,025	93%
高度急性期	996	164%	519	519	335	354	257	219	302	302	30%	▲694	297	609	49%
急性期	2,112	110%	2,682	2,639	2,778	2,887	2,936	2,694	2,795	2,795	132%	+683	2,741	1,922	143%
回復期	302	19%	340	402	433	511	500	610	890	890	295%	+588	978	1,623	60%
慢性期	723	83%	832	834	832	835	721	961	678	678	94%	▲45	678	871	78%

図1) 埼玉県南部構想区域の病床機能別数値

南部構想区域における医療提供体制については、構想区域全体の病床機能の状況に加え、地域ごとの医療需要や医療機関の配置状況を踏まえた検討が求められている。

3. 当院周辺地域における医療提供体制および入院需要の状況

南部構想区域全体では急性期病床が一定程度確保されている一方で、医療機関の配置状況は区域内で一様ではない。図2のとおり、川口市内の病院は市内北部及び中央部に比較的集積しており、当院周辺地域においては、近隣に社会医療法人社団大成会武南病院が所在するものの、病院の配置は限定的な状況にある。

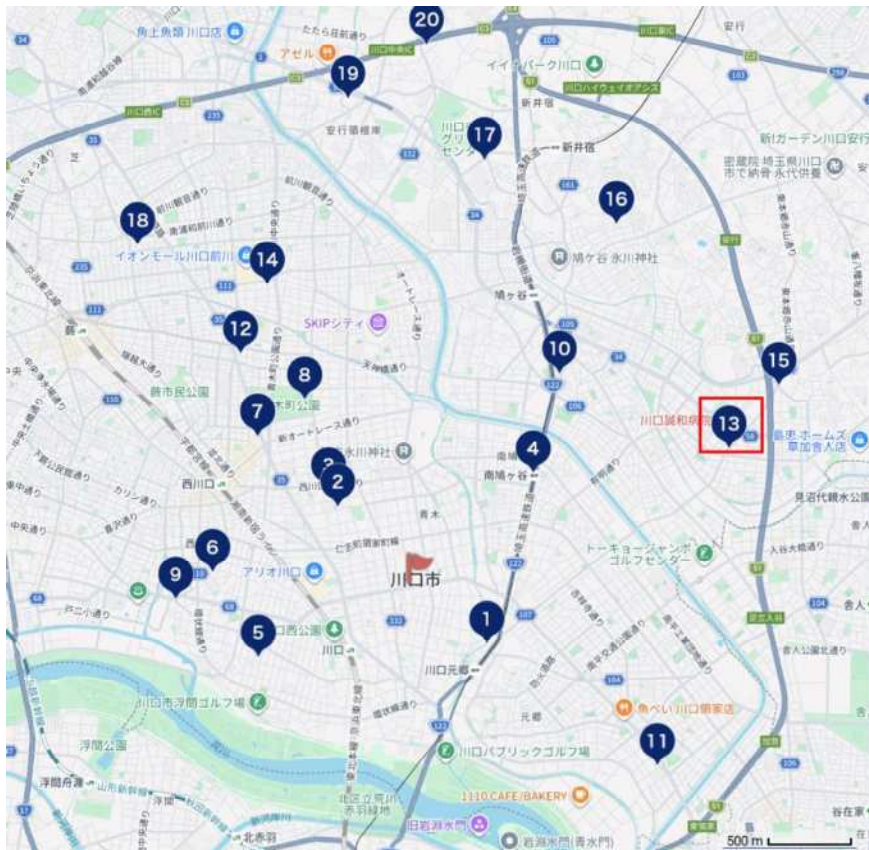


図 2) 埼玉県川口市の医療機関(病院)

また、図3のとおり、当院の地域一般病床の病床利用率は 2026 年 7 月下旬 95.8%、2026 年 8 月上旬 97.5%、2026 年 8 月中旬 96.3%と満床に近い水準で推移しており、地域からの入院需要が継続して認められている状況である。

■ 病床別利用率

	2026年3月期	2026年4月			2026年5月			2026年6月			2026年7月			2026年8月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
地域一般	70.3%	103.8%	80.5%	63.3%	80.0%	75.0%	90.9%	84.2%	84.2%	84.2%	90.8%	89.6%	95.8%	97.5%	96.3%
地域包括ケア	85.8%	65.8%	77.9%	83.8%	86.3%	85.8%	77.7%	85.8%	73.3%	87.9%	92.1%	93.3%	93.6%	87.9%	89.6%
療養	78.7%	86.0%	88.6%	92.3%	95.0%	94.3%	93.4%	94.0%	96.5%	100.0%	98.5%	94.8%	93.6%	89.3%	88.3%
合計	78.3%	85.3%	80.5%	82.0%	88.5%	86.7%	88.4%	88.5%	86.8%	92.4%	94.7%	93.0%	94.2%	91.1%	90.8%

図 3) 当院の病床別利用率推移

以上のことから、南部構想区域全体の病床機能の状況に加え、当院周辺地域における医療需要及び患者受入体制についても考慮する必要がある。

4. 病床種別変更による地域医療への効果

本件病床種別変更は、新たな病床の増床を行うものではなく、療養病床 12 床を地域一般病床へ転換し、有効活用を図るものである。既存病床の有効活用を通じて地域の入院需要に対応するものであり、「地域医療構想策定ガイドライン」に示される「地域の実情に応じた医療提供体制の確保」に資する取組である。

また、当院の地域一般病床は高い病床利用率で推移しており、今回の病床種別変更により地域一般病床は 24 床から 36 床となることから、地域住民の入院受入体制の強化が可能となる。

5. おわりに

本件病床種別変更は、2040 年を見据えた地域医療構想の趣旨を踏まえ、地域の実情及び医療需要に応じた医療提供体制の確保を目的として実施するものである。今後も高齢化の進展に伴う医療需要の変化が見込まれる中、地域住民が必要な医療を適時かつ適切に受けられることができる体制の維持が求められている。

当院としては、急性期医療から回復期医療、慢性期医療までを担う地域密着型のケアミックス病院として、地域の関係医療機関、介護事業者及び行政機関との連携を一層推進するとともに、外来医療、在宅医療及び介護との連携を図りながら、地域包括ケアシステムの深化・推進に努めていく。

また、限られた医療資源を有効活用しつつ、地域における医療機関の役割分担及び連携を踏まえながら、必要な医療機関機能の確保と持続可能な医療提供体制の構築に貢献してまいりたい。

以上のことから、本件病床種別変更について御理解賜りたく、ここにお願い申し上げます。

以上

引用

- ・2040 年に向けた地域医療構想「地域医療構想策定ガイドライン」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001718620.pdf>

- ・図1)2040 年に向けた地域医療構想「②構想区域の病床数等」

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.mhlw.go.jp%2Fcontent%2F10800000%2F001723349.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK>

- ・図2)医療情報ネット(ナビい)_埼玉県川口市の医療機関(病院)

https://www.iryuu.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2410/initialize/?lo=111203&sjk=3&jc=MC-01&cp=%E5%9F%BC%E7%8E%89%E7%9C%8C%E5%B7%9D%E5%8F%A3%E5%B8%82_35.8077356_139.7241874_A&kkn=1